

|                              |   |
|------------------------------|---|
| 団体名<br><br><b>糸満市立糸満南小学校</b> | 連絡先 TEL : 098-994-2121<br>Eメール :<br><b>minami@itomanms.city.itoman.okinawa.jp</b> |
|------------------------------|---|

## 1 実践事項 (②)

- (1) 支持的風土の学級・学校づくりについて
- (2) 子供主体の学び合い高め合う授業づくりについて
- (3) 地域と共にある学校づくりについて

タイトル：「糸満市学力向上主要施策に係る取組」

## 2 実践内容

### (1) 支持的風土の学級・学校づくりについて

#### 【現状】

令和元年度より「支持的風土の学級づくり」を目指して、教師と児童、児童相互の対話を大事にした学級経営に努めている。各教科による授業において「主体的・対話的で深い学び」を目指し、発問や見通し、授業展開の工夫改善に努めてきた。

また、生活面や学習規律を定期的に児童と確認し合うことで、落ち着いて授業に取り組めるようになってきた。今年度も前年度と引き続き、職員による協働体制のもと、認めることを通した自己有用感・自己肯定感の育成及び生活指導における共通実践事項の徹底に努めた。

#### 【今年度の取組】

##### ①年間計画

| 1 学期   | 2 学期   | 3 学期  |
|--|--|---|
| <b>【月 1 回実施内容】</b><br>・いじめアンケート<br>・いじめ防止対策委員会<br>・人権週間<br><b>【年 2 回実施】</b><br>・教育相談週間<br><b>【5 月に実施】</b><br>・i—c h e c k (3～6年) | <b>【月 1 回実施内容】</b><br>①いじめアンケート<br>②いじめ防止対策委員会<br>③人権週間<br><b>【年 2 回実施】</b><br>・教育相談週間<br><b>【適宜実施】</b><br>①i—c h e c k 分析<br>②自己肯定感に関する児童アンケートの実施 | <b>【月 1 回実施内容】</b><br>・いじめアンケート<br>・いじめ防止対策委員会<br>・人権週間 |

②前年度の反省をふまえ、今年度は、校内研と関連してi—c h e c kを通した児童の変容を見取っていった。授業改善を通して、児童がどう変容したかを客観的データに基づいて判断し、研究テーマの検証を図り、支持的風土の学級づくりの一素材として活用した。

③生徒指導動画「いとみなチャンネル」※写真1今年度、本校での取り組みとして、児童が主体となり学校のルールを伝えていく「いとみなチャンネル」を新たに行った。児童が主体的に学校の問題や課題を見つけ、動画で全校児童に伝えていく取り組みとなっており、いとみなチャンネルを通して、児童の「自己指導能力」の獲得を目指すとともに、全児童が楽しみながら学校生活を送ることができることを目的としている。

生徒指導の課題となっている対応を行いつつ、出演者はいろいろな学年の児童が行ったことで、活躍することのできる場を多く設けることができ、児童の自己肯定感の向上につながることができた。 ※写真1



写真1 いとみなチャンネル

## 【成果と課題】

### ①成果

- ・学習規律の徹底を意識しながらの指導を常に行った結果、それぞれの学級で支持的風土の醸成が図られてきている。
- ・「自己有用感」「自己肯定感」の育成の観点で、児童主体の生徒指導動画「いとみなチャンネル」を適宜配信した結果、児童自ら行動する力が少しずつ身についてきた。また出演した児童の自己有用感や自己肯定感も高まったと思われる。

### ②課題

- ・継続した指導を通して、支持的風土の醸成をさらに図り、学校全体へと浸透させていくこと。

## (2) 子供主体の学び合い高め合う授業づくり

### 【現状】

学力向上推進担当を中心に実践に取り組んでいる。全職員に対し「子ども主体の学び合い高め合う授業づくり」について共通理解を図り、実践へとつなげている。

### 【今年度の取組】

- ①夏季休業の期間を活用した、全国学力・学習状況調査や県到達度調査等の分析を行った。
- ②「校内研部会」「ICT部会」「海洋教育部会」を月1回実施した。 ※写真2
- ③専門的知識や技能をもっている職員が多く、その先生方による授業参観や管理職の助言等を通して、授業力向上を図り、「学び合い高め合う授業」を意識した授業改善を図った。
- ④学年当初は児童の実態把握に努め、その実態を通してペア学習やグループ学習、ロイロノートを活用した思考の共有化を浸透させていく取り組みを行ってきた。 ※写真3・4



写真2 ICT部会



写真3 学び合い



写真4 ロイロノートの活用

## 【成果と課題】

### ①成果

- ・全国学力・学習状況調査や県到達度調査の分析を行い、各学年で指導の成果と課題を取り上げた結果、授業内においての力を入れるポイント部分を焦点化することができた。また、その指導を通して、児童の基礎学力定着へと結び付けることができ、「子ども主体の学び合い高め合う授業づくり」の実践へと結び付けることができた。
- ・校内研部会、ICT 部会、海洋教育部会を月 1 回行ったことで、年間のみならず月間の活動の流れを確認し、校外学習の実施検討や授業内容の確認、タブレット端末等の活用推進を共有化することができ、児童の指導へと生かすことができた。
- ・各担任が授業公開をし、助言を受け、次のステージへのステップアップへと結び付けることができた。また、どの授業においてもアウトプットを重視することで「学び合い」や「自己肯定感を高める」ことを意識した授業展開を図ることができた。
- ・ペア学習やグループ学習、タブレット端末を活用した思考の可視化を授業で積極的に取り入れた結果、児童同士が互いに高め合う姿が多くみられ、児童自ら学ぶ態度が身についてきた。

### ②課題

- ・基礎学力の更なる定着を目指した「学び合い」「思考の可視化・共有化」を図った授業展開。
- ・タブレット端末の効果的な活用及び職員間における情報共有。

## （3）地域と共にある学校づくり

### 【現状】

特色ある学校づくりと信頼される学校づくりを目指し、実践していく上で、家庭や地域からの協力を得ながら、学校評価に係る意見や要望等をもとに、取り組みの工夫改善に生かしている。今後も地域の教育力活用を積極的に進め、地域とともにある学校づくりを推進する。

### 【今年度の取組】

- ①地域を知るための海洋教育（ハーレー・ハーレーの歌・造船所見学・講話等） ※写真 5
- ②保護者ボランティアの活用  
(水泳学習における安全監視・ミシンの使い方や裁縫・校外学習安全見守り等)
- ③外部講師の活用（習字教室の先生による指導・命の授業講話等）
- ④関係公共機関（糸満警察署等）との連携 ※写真 6  
(交通安全教室、非行防止教室、サイバー犯罪被害防止教室、避難訓練時の避難補助)
- ⑤スポーツ少年団との連携（野球、サッカー、バスケットボール）
- ⑥地域との連携（朝の交通安全立哨・学校運営協議会との意見交流等）
- ⑦外部機関との連携（クラブ活動講師・ペタンク大会の参加） ※写真 7



写真 5 マルカ水産の方による講話



写真 6 糸満警察署との連携



写真 7 ペタンク大会

## 【成果と課題】

### ①成果

- ・調べ学習だけでは得られない体験学習を積極的に実施した結果、児童の興味関心が高まり、地域の実情も知ることができ、学習の展開へと生かすことができている。
- ・保護者や地域の方が積極的に協力して下さったことで、安全に地域学習を実施することができた。
- ・関係公共機関や外部機関との連携を図った結果、具体的な内容について触れることができたとともに、今後の職業選択もふまえたキャリア教育へも結び付けることができた。
- ・地域コーディネーターを活用し、講師と密に調整して下さるなど、スムーズな活動展開をすることができた。

### ②課題

- ・1年間を見通した計画の作成（年間指導計画に位置づける等）
- ・地域の実態を教師が知る機会の充実（校内研との関連・視察研の実施等）